

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1472900693
法人名	マイルドライブケア(株)
事業所名	グループホームあつぎみなみ
訪問調査日	平成 20年9月17日
評価確定日	平成 20年10月 29日
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1472900693
法人名	マイルドライブケア(株)
事業所名	グループホームあつぎみなみ
所在地	〒243-0021 神奈川県厚木市岡田5-8-23 (電話) 046-220-1411

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	〒220-0074 神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成20年9月17日	評価確定日	平成20年10月29日

【情報提供票より】(平成20年9月3日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成17年2月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 4 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 10 人	

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	3 階建ての	2 階 ~	3 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	63,000 円	その他の経費(月額)	44,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(600,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(9月3日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低 77 歳	最高 96 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	真和クリニック、池田歯科、近藤病院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

- ◇事業所は小田急線本厚木駅からバスで6分の市街地にあり、近くに散歩道、神社があり利用者の散歩コースになっている。
- ◇職員全員で作った理念「愛情、地域とのネットワーク、耳を傾ける、和やかな笑顔、家族」を介護サービスのキーワードにしている。
- ◇自治会に加入しており、地域行事に参加し、近くのスーパーマーケットやコンビニエンスストアに買い物に出かけるなど、地域の一員として暮らすように支援している。
- ◇医療機関との24時間の連携体制があり、往診には医師、看護師、薬剤師のチームで来訪するので、利用者にとっては手厚い医療・看護体制がとられている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・口腔ケアについては、ホーム長、職員が研修に参加し、また、利用者が食後に歯磨きなどを行うように職員が支援し、毎日チェック表に記録し管理している。 ・災害対策への地域協力体制については、運営推進会議で火災予防対策や避難時の救護担架設置などの助言をもらい、また、地域主催の防災訓練にホーム長が参加して、着実に協力体制を構築しつつある。
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホーム長が全体会議で職員に評価の意義を説明し、職員の意見を聞きながら作成した。 ・出来上がった自己評価票はスタッフルームに置き、職員個々が日常業務の自己チェックのために閲覧できるようにしてある。
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3か月ごとに運営推進会議を開催して事業所の状況報告、意見交換をしている。参加メンバーは自治会長、民生委員、家族代表、地域包括支援センター職員、ホーム長である。 ・事業所へのボランティア導入と、認知症の講義の開催が提案された。災害時の利用者運搬方法、電気コンセント出火防止用具を使って出火防止する方法などの意見をいただいた。
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族が訪問したときに職員が聴取した意見や要望をホーム長に報告し、連絡ノートほかに記録して職員間で情報を共有して、日常サービスに反映するよう努めている。 ・家族との懇談会は夏の納涼会や冬のクリスマス会の時に行うように計画している。 ・今までに苦情発生はない。ご意見箱を設けてあるが利用例はない。
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会に加入しており、8月の地域主催の防災訓練にホーム長が代表で参加した。事業所で開催した夏の納涼会には地元のフラダンスやハーモニカのボランティアが参加した。 ・近くのスーパーマーケット、コンビニエンスストアに買い物に出かけるなど地域の一員として暮らすように支援している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・「愛情、地域とのネットワーク、耳を傾ける、和やかな笑顔、家族」をキーワードにした理念を職員全員で作成し、日常の介護支援サービスでは、その理念の具現化に努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・理念をリビングに掲示して、職員一人ひとりが日々の仕事の中で具現化できるように意識づけている。 ・全体会議や毎月開催するカンファレンス会議では、検討結果が理念に沿っていることを確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・事業所として自治会に加入し、8月に開催した地域防災訓練にホーム長が参加し、地域社会との連携・交流を深めている。 ・事業所で開催した夏の納涼会には地元のフラダンスやハーモニカのボランティアの参加を得ている。 ・利用者は、近くのスーパーマーケット、コンビニエンスストアで買い物を楽しむように支援している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・ホーム長が全体会議で職員に評価の意義を説明し、職員の意見を聞きながら自己評価票を作成した。 ・出来上がった自己評価票はスタッフルームに置き、職員個々が日常業務の自己チェックのために閲覧できるようにしてある。	○	自己評価は、全職員が評価項目に対し現在自分がどのような実施しているかを検証するところに気づき効果が発生します。次年度から、職員一人ひとりが自ら記載することを期待します。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・3か月ごとに運営推進会議を開催して事業所の状況報告、意見交換をしている。事業所以外の参加メンバーは自治会長、民生委員、家族代表、地域包括支援センター職員である。 ・事業所へのボランティア導入と、認知症の講義の開催が提案された。災害時の利用者誘導支援方法、電気プラグスリーブを使用して出火防止する方法などの意見をいただいた。		

あつぎみなみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・施設長が年間数回開催される厚木介護保険事業所連絡会に参加し、行政との情報交換を行っている。 ・厚木市担当者とは、利用者に関する手続きなどを通じて連携しており、また、ファックスなどで必要情報を得ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	・毎月ホーム便りを発行し、利用者の生活状況や事業所の行事予定、金銭出納帳の報告をしている。利用者が急変したときは家族に電話連絡している。 ・家族が来訪したときは、本人の生活状況を報告し、家族からの意見や要望も聞いている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族が来訪したときに職員が意見や要望を聴取し、ホーム長に報告してサービスへの反映に努めている。聴取内容は連絡ノート、個人記録などに記録し職員間で情報を共有している。 ・夏の納涼会、冬のクリスマス会に合わせて家族との懇談会を設けている。 ・今までに苦情発生はない。ご意見箱を設けてあるが利用例はない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・離職職員の挨拶、新入職員の紹介を利用者に行っており、今まで特に混乱は発生していない。 ・ホーム長は、新入職員が職場に慣れた3ヵ月後頃に面接を行い、職員間のチームワークを維持して離職を少なくするようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・外部研修の情報はスタッフルームに掲示して伝え、本人の意思により、または、ホーム長からのアドバイスで受講をするように勧めている。本年5月に「外部評価を活用した目標管理のマネジメント」の講習にホーム長が参加した。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・施設長が厚木介護保険事業所連絡会に参加し、同業者との情報交換を行っている。同会主催の口腔ケア講習にホーム長と職員が参加した。 ・横浜市役所と同連絡会との意見交換会の場や、神奈川県認知症高齢者グループホーム協議会が開催する研修会に参加して同業者情報を得ている。	○	・職員のスキルアップのために、同一地域の同業者との間で、職員交流による相互研修などの実施をお奨めします。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・入所前に利用者、家族が事業所を見学し雰囲気を知ってもらっている。 ・ホーム長とユニットリーダーが出向き、家族、利用者から家庭での状況や課題など入所後に必要な情報を把握している。 ・入所後は家族が頻りに訪れて利用者が不安を感じないようにし、職員は利用者が徐々に事業所に慣れるようにしていねいに対応している。 		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者と共に過ごす時間を多くして、世間話、料理、花の水やり、歌、ゲームなどを一緒に楽しむようにしている。調査当日も職員と利用者間の明るい笑いと会話が聞こえていた。 ・煮物の味つけや簡単な料理方法など利用者から学ぶ場面が多く、利用者は人生の先輩として対応している。また、介護サービスの後、利用者から「ありがとう」の声を頂くときが多い。 		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の利用者との会話を通じて思いを把握している。会話が困難な場合は、利用者の表情や外出の際の反応をみて思いを把握するように努めている。 ・家族から、あらかじめ利用者の趣味や好きな食べ物などを聞いておいて、利用者の喜ぶ表情などにより意向の把握に努めている。 		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月利用者3名を対象にしてケアカンファレンスを開催している。 ・介護支援専門員、ホーム長、ユニットリーダー、そのときの出席可能な職員をメンバーとしている。 ・職員の利用者担当制を8月から始めた。他の職員は随時、気付きメモを担当職員に提出し、毎月のカンファレンスで担当職員が意見をまとめて介護計画に反映している。 		

あつぎみなみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> ・3か月ごとに介護計画の見直しをしている。見直し前に利用者の状況が変化した場合は家族、医師に連絡し、臨時のケアカンファレンスを開いて計画変更をしている。介護計画書の実施項目に対応して実施した内容を毎日記録している。 ・医師のアドバイス、家族の意見を介護計画に取り入れ、見直した介護計画を家族に説明している。 		
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が併設のデイサービス施設の行事に参加し、ボランティアの民謡踊りなどを楽しんでいる。また、デイサービス利用者がグループホームに来院して交流することもある。 ・通院時に家族の都合がつかない場合は職員が付き添うなど、臨機応変に対応している。 		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・協力医療機関は真和クリニック(月2回往診)、内田歯科(毎週1回往診)、近藤病院(総合科目)である。利用者が希望すれば、従来のかかりつけ医にかかることも支援している。 ・真和クリニック往診は医師、看護師、薬剤師のチームで来訪し、24時間医療対応の体制を敷いている。スタッフルームに、医療緊急連絡網として看護師、医師の連絡先を掲示して緊急時に備えている。 		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	<ul style="list-style-type: none"> ・終末期を迎えた利用者はまだいないが、重度化した場合は家族、医師と密に連絡を取って対応する体制ができています。 		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は入社時に個人情報順守義務について研修を受け、その後も職員会議などの場で説明を受けている。 ・ホームだよりなどに掲載する写真などは、利用者の入所時に家族から掲載許可を得るようにしている。 ・業務日誌、水分摂取表には、個人の名前を記入せず、部屋番号で記入している。 ・個人情報に関する書類はスタッフルームのロッカーに施錠保管している。 		

あつぎみなみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・1日の特に決まったスケジュールは無く、利用者のペースで過ごしている。お昼はなるべく全員揃って食べるようにしている。 ・歌、カルタ、金魚や亀の餌やり、花の世話など利用者は思い思いに自分のしたいことをして日常を過ごしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・利用者に食事を楽しんで貰うため、一人ひとりの好き・嫌いを聞いて表にしキッチンに掲示し、利用者の嗜好に配慮している。 ・食材・献立は業者に委託しており、栄養士が栄養バランスを管理しているが、利用者の嫌いなものがある場合は、献立の一部を個別に変更している。 ・職員は利用者と一緒に食事をし、楽しい話題を提供している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している	・入浴は少なくとも3日に1回は入浴するように支援している。 ・入浴は、午後1時から3時くらいに行っているが、自立している利用者には夕方または夕食後8時まで希望に添って入浴できるように配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・一人ひとりが役割を持って過ごせるように、園芸で花の世話や、飼育している亀への餌やり、買い物など、それぞれができることをして貰っている。 ・ひな祭り、七夕、お月見等の行事には、職員と一緒に飾り付けを手伝っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・天気が良ければ、近くの小学校や神社まで散歩に出かけている。 ・外出は週2～3回行い、職員と一緒に車でスーパーマーケットに買い物に出かけることもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・建物の構造上、玄関だけが1階のため見通しが利かないので防犯目的で施錠をしているが、館内は1階から3階まで自由に行き来できる。 ・居室は利用者の意思で中から施錠できるが、外から職員が解錠できる。		

あつぎみなみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・万一の災害に備え、マニュアルを作成して施設内に掲示している。 ・避難訓練は平成20年3月10日に、3階居室の電化製品の電源プラグから出火したとの想定で行った。次回は10月10日頃を予定している。	○	・ライフラインがとまるような災害に備えて、3日程度の食糧、水などの備蓄をすることを期待します。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・栄養バランスは栄養士がチェックしており、各人別の摂食量、水分摂取量は、個人別に記録し管理している。水分摂取量は一日1000ccを目標にしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・共用空間は清潔に保たれ、空調・温湿度などもきめ細かに管理し、生け花やカレンダーなどで、生活感・季節感もでて快適な空間になっている。 ・リビングにはソファや家具を置き、家庭的な生活感ができるように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室のスペースは広く、ダンス、仏壇、家族の写真など利用者夫々馴染みのものを持ち込み、利用者が安心して、落ち着いて過ごすことできるように配慮している。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム あつぎみなみ
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	神奈川県厚木市岡田5-8-23
記入者名 (管理者)	松下 久美子
記入日	平成 20 年 9 月 3 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者のことを第1に考え笑顔で生活できるように職員全員で話し合い、みんなに解りやすい理念を考え作成しました		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所内にて研修を行い、リビングに掲示することで日々の業務に反映できるように努めています		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理解をしてもらえるように地域の人には2～3ヶ月に1回運営推進会議で、家族とは3ヶ月に1回のケアプラン説明時や面会時にて話をしています		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩、買物等で挨拶して出来るだけ顔見知りになる様に近所へ出かけることを心がけています		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し出来るだけ行事に参加できるように努めています		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2～3ヶ月に1回会議を設けて話をし意見を聞きサービス向上に活かせる様に努めています		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現時点では必要な方がいないため行っていませんが必要な時には支援できるように努めます		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日ごろから注意を払い防止に努めています		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明し理解、納得して頂ける様に努めています。その後の疑問等が出た時は、再度説明し不安が無いように努めています		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の会話の中から不満苦情を聞き会議の議題にして改善していくように努めている		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回手紙にて日ごろの暮らしぶりや行事の報告お知らせをしています。金銭出納長を用意しコピーしたものを送付しています		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時必ずお茶を出し気軽に話せる環境を作り、意見があれば職員間で話をし改善できるように努めています		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や日ごろから話をし意見を取り入れ改善できるように努めています		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員間で話し合い勤務調整をしていますが十分な柔軟な対応はできていません	○	柔軟な対応が出来るように職員の人数を増加したいと考えています
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職時には利用者へも話をし理解していただけるように努めています		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報があれば掲示し参加するように伝えていきます。新職員には全職員が関わり育成していくように努めています	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	厚木市介護保険事業者連絡協議会と交流を取り、勉強会などを行っています	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日々交流を行い気軽に相談できる関係作りに努めています	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務状況を把握し個々の性格を理解した上で助言に努めています	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族から話を聞きご本人の表情や言動からも求めていることを把握できるように努め、意思を尊重した支援を心がけています	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学、面接を行い時間をかけて理解できるように努めています	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	内科、歯科、マッサージ等があることを伝え必要としている支援を話せるように努めています		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にはご家族とご本人の見学を勧め、入居後ははじめまでご家族と食事を共に食べたり、泊まって頂いたりと努力しています		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	世間話や料理、花の世話、歌等を教えてもらったりと日々自然と笑える環境づくりに努めています		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族ボランティアに登録していただいている方には援助してもらい、他のご家族とも話をし良い関係を気づけるように努めています		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	出来るだけかかわっていただけるように日ごろからご家族とは連絡を取り通院や外出、消耗品の購入の援助をさせていただいています		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会を常に受け入れ居室で過ごせる環境を作り、要望があれば出来るだけ外出できるように努めています		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の性格を把握し、席を移動したり、椅子を用意したりし、職員も関わりながらよい関係が出来るように努めています		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ご家族から相談があればいつでも対応できるように努めています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活を把握し一人ひとりにあったケアプランを検討しています		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から聞き出来るだけ今までと同じような生活が出来るように努めています		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	家族からの話や日常の見守りから把握できるように努めています		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者一人に対し3ヶ月に1回カンファレンス会議を行っています。利用者一人にスタッフ1名が担当になり家族、医師の意見を反映した計画を作成しています。会議欠席のスタッフの意見も聞ける様に「気づきメモ」を提出しています		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回の見直しと変化があった時に家族や医師の意見を反映し計画書を作成しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝と夕に申し送りや連絡ノートを使用し一人ひとりの状態を把握できるように努めていますまた日々の個別記録を記入し介護計画の見直しに活かしています		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要望に応じて外出が出来るように努めています		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の徘徊支援に登録をし協力をお願いしています		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要性に応じて福祉用具のサービス事業所を利用しています		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議での交流はありますが利用はしていません		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	説明をし納得して頂き受けてもらっています 内科往診を月2回と歯科往診を月4回行っています		

あつぎみなみ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々を把握して声かけには注意するように努めています 記録には個人情報になるものは記入しないようにしています	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の希望を出来る限り支援できるように努めています 個々での買物や外食など	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調に合わせて散歩、入浴、買い物の声かけを行い本人の希望を大切に支援しています	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望により近所の床屋へ行ったり訪問してもらったりしています	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いを把握し個々に対応できるように心がけています 準備や片付けは個々の力量に合わせて楽しみながら出来るように支援しています	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒に関してはある程度の規制はしていますが他のものは状況に合わせて楽しめるように支援しています	

あつぎみなみ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表に排泄状況を記入し声かけ、誘導を行っています		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後の時間に入浴チェック表で確認し声かけを行い本人の希望も聞き支援しています		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	毎日同じ場所で日中は過ごせるように支援し、夜間は2時間ごとに巡視して安全を確認しています		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々で役割を持ってもらい楽しみに出来るように支援しています 花の世話や亀の世話、買物などを行っています		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持している方は直接支払い等をしてもらい、所持出来ない方はお預かりし出納帳にて職員が管理しています		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体調、天候を考慮し少しでも外へ出られるように支援しています		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個々や少人数で外出できるように努めています		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの申し出にいつでも答えられるように努めています		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は特に決めていません 来られた方にはお茶を出しゆっくりとさせていただけるように心がけています		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを行っています		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の構造上玄関だけ1階のため外部からの完全確保もあり施錠していますが他は施錠しないケアに取り組んでいます		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	気分の変化、行動パターンを把握し声かけをしています 居室に入る時は必ずノックするなどプライバシーにも配慮しています 2時間毎の巡視を行っています		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品は棚の上のほうに置くようにしています。使用する時は個々の状態に応じてスタッフが側で見守る様にしていきます		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットを記入し会議にて話をし事故防止に努めています		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当の講習を受けていますが新人の職員は受けていません	○	講習会を行いたいと思います
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作り掲示しています		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	居室内での転倒など日々のリスクに関して介護計画書の説明時や 面会時に話をしています		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタル測定、排便の有無の確認を行い記録しています 入浴時は皮膚の観察、月1回の体重測定を行っています 異常時はスタッフ間で共有できるように申し送り、記録をして対応しています		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェックを記録し忘れないように努めています 内服薬のノートを作り薬の量、目的を理解しやすくファイルしています		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	散歩や運動をするように勧めています 食事以外にも牛乳や乳酸菌飲料など個々に合わせた飲み物を毎日飲むように取り組んでいます		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後個々の状態に合わせて口腔ケアを実施しています 希望者には週1回往診に来ていただいています		

あつぎみなみ

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせ量を調節し栄養不足と思われる時は補助食品を使用し調節しています 水分量は表にし確認しながら摂取してもらっています		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作り対応を行っています		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日使用する茶碗などは熱湯消毒し「消毒チェック表」に記録しています 食材は毎日業者の配送にて対応しています		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	親しみやすくなる様に花や絵を飾って家庭の雰囲気を出す様に努めています		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにソファや花を置き生活感を出して居心地良く過ごせるように工夫し、かめを飼い利用者の話題になっています		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2階、3階にソファとテレビを置き自由に過ごせるような場所を作っています		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と家族と相談し使い慣れたもの、好みのものを持参していただき過ごしやすく居心地良い場所になる様に支援しています		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気扇を利用したり、窓を開けたりし温度は27～28度に調節し、状況に応じてこまめに変更しています		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	不安定だが歩ける方は手すり等につかまって歩行し、バリアフリーにより自走で車椅子の移動が可能、エレベーターも簡単な操作のみになっています		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々でできること、得意なことをしていただくことで自信につなげていき、失敗したら見守り声かけ、一部介助にて支援していき自立できるように努めています		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダにて、花を育てています 建物外の畑や花を見に散歩を楽しんでいます		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

あつぎみなみ

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

1、希望を聞き個別に外出支援を行っています

2、毎月1回お楽しみとして季節に合わせた行事を行っています

3、ほぼ毎日散歩や買物に出かけ季節を感じられるようにしています